

令和5年度 授業改善推進プラン<1年国語>

国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- 漢字や語彙の定着を図るため、小学校一年生からの漢字を使用した熟語の小テストを行った。
→繰り返しテストを行うことで定着している。学び直しとともに、新たな語彙を身につけている。
- ペアワークや班など、相互に意見交換をする機会を設け、多様な考えに触れ、自己の考えを深める活動を行った。→テンポ良く近くの人と意見交換ができるようになり、発言の機会が増えた。
- スピーチやプレゼンテーション、ビブリオバトルなど様々な形式で、まとめたことを発表する場を増やす。
→原稿を見ずに発表することに慣れることで、表現力の工夫が見られた。

国語科における調査結果の分析

内容の結果分析	内容別に見ると、全ての項目において、目標値、全国平均正答率を上回っており、小学校までの学習が定着していることが見て取れる。特に、「説明的な文章の内容を読み取る」においては全国平均を13.5ポイント上回っている。一方で、「文章の展開と結び付けながら、表現の効果について考える」問題においては、課題が見られるため、文章を読み取る際に授業の中で改善していく。
観点別の分析	3観点について、目標値、全国平均正答率を大きく上回っている。 問題を詳細にみたときに、「意図に応じて、話の内容を捉え、適切な質問をする」場合や、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」場合の記述式問題(25字以内)においては、目標値と同等であったため、今後、記述問題を課す際には単純な発問ではなく条件や制限をふまえて書く練習をすることで文章記述力を育てていく。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 知識・技能の定着を図る
 - ・漢字の読み書きの力の定着のため、小テストを繰り返し行う。文法事項や古典の歴史的仮名遣いについては、授業での説明だけでなく、暗誦や問題演習の時間を確保することで定着を図っていく。
- 文章読解力の向上を図る
 - ・聞き取りの小テストを授業の冒頭で行うことで、聞き取りの力を向上させる。
 - ・文章の展開と結び付けながら、表現の効果について、題材ごとに丁寧に確認する。
 - ・説明文では、筆者の論の展開の仕方について批判的に考察させることを通して、段落の役割や構成を意識して読ませる。文学作品では、場面設定や心情の変化を追うよう気をつけさせる。
- 文章を書く活動を継続する
 - ・各単元ごとに時間内に200字～400字で作文を書くことを繰り返し行うことで書く力を育む。また、ただ書くだけでなく、課題に応じた要諦を示すことで内容の精度を向上させる。初見の文章や、複数のグラフからも情報を読み取り、要点を押さえて書く練習を行う。その際、ICTを活用し互いの文章を相互に評価できるようにし、推敲につなげる。
- ビブリオバトルや、スピーチ練習を通して発表の機会を設ける。
書いた文章の原稿を見ずに発表する機会を通して、表現力の向上を図る。
文章の内容や構成のみならず、身振り手振りや強弱といった話し方技術の向上に努める。

国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- 特に文法に関する事項において、授業内での問題演習を充実させたり、内容ごとの小テスト等を行ったりして、着実に知識・技能の定着を図る。また、古典の学習においては繰り返し暗誦させることで古典独特の仮名遣いやリズムに慣れ定着を図った。
 - 「文法・語句に関する事項」「漢字の読み書き」の校内平均正答率が目標値・全国平均を上回った。特に漢字の書きについては全国平均を9.3ポイント上回った。引き続き継続していく。
- 新出語句の確認を欠かさず行い、書かれていることを正しく読み取れるよう指導した。読解の根拠となる文を題材ごとに丁寧に確認する。また、文章の展開と結び付けながら、表現の効果についても考えられるよう促した。
 - 「読むこと」については全国平均正答率を8.7ポイント上回った。

国語科における調査結果の分析

内容の結果分析	<p>内容別に見ると、全ての項目において、目標値・全国平均正答率を上回った。特に、「文学的な文章の内容を読み取る」においては11.2ポイント、「文章を書く」については11ポイントと大きく全国平均を上回っており、昨年度より実施している文章の読解や、様々な形式の作文練習などが定着していることが見受けられる。一方で、さらに詳細を見ると、文法における「単語の理解」については目標値を少し上回っているレベルであるため、一年次に学習したことをもう一度復習しながら次の文法事項の習得を行っていく。</p>
観点別の分析	<p>3観点について、目標値、全国平均正答率を上回った。</p> <p>上記同様、「文章を書く」については様々な条件で自分の考えを書く問題において、全国平均正答率を上回っているため、今後も自身の考えを形成し、条件に応じて適切に書く力を様々な場面で育てていく。また、ICTを活用し、生徒が書いた文章について細かく教師がフィードバックすることで、書く意欲を引き出し文章力を向上させる。一方、「場面と描写を結び付けて、内容を解釈する」問題においても目標値を少し上回る程度であったため、授業の中で意識して触れていく。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 知識・技能の定着を図る
 - ・漢字の読み書きの力の定着のため、小テストを繰り返し行う。文法事項や古典の歴史的仮名遣いについては、授業での説明だけでなく、問題演習の時間を確保することで定着を図っていく。
- 文章読解力の向上を図る
 - ・読解の根拠となる文を題材ごとに丁寧に確認する。
 - ・説明文では、筆者の論の展開の仕方について批判的に考察させることを通して、段落の役割や構成を意識して読ませる。文学作品では場面と描写を結び付けて、内容を解釈することを意識させる。
- 文章を書く活動を継続する
 - ・各単元ごとに時間内に200字～400字で作文を書くことを繰り返し行うことで書く力を育む。また、ただ書かせるだけでなく、評価の項目をループリックで明確に示すことで適切な文章を書けるように促す。さらに、書いた文章に対して教師が細かく助言をすることで、意欲につなげる。

令和5年度 授業改善推進プラン〈3年国語〉

国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- 特に文法に関する事項において、授業内での問題演習を充実させたり、内容ごとの小テスト等を行ったりして、着実に知識・技能の定着を図る。
→「文法・語句に関する事項」の校内平均正答率が目標値を5.1ポイント上回った。粘り強く継続していく。
- 文章を書く活動を継続する
 - ・自分の考えをまとめ、文章で表現する活動は意識的に継続して取り組む。
 - 「文章を書く」では校内平均正答率が目標値を1.8ポイント上回った。質・量ともに強化し継続していく。

国語科における調査結果の分析

内容の結果分析	<p>内容別に見ると、「話の内容を聞き取る」以外の項目において、目標値を上回った。特に、「漢字を書く」では12.9ポイント、「文学的な文章の内容を読み取る」においては14.3ポイント上回っており、昨年度より実施している漢字の学習や、読解の根拠となる文を題材ごとに丁寧に確認する取組みが定着しており、今後も継続していく。</p> <p>「話の内容を聞き取る」能力の向上については、授業の冒頭で聞いたことを書き取る小テストを実施するなどして定着を図っていく。</p>
観点別の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」については、目標値・全国平均共に上回っている。 ・「思考・判断・表現」については、目標値・全国平均を上回っているが、「文章全体と部分との関係」を踏まえて解釈することや、「複数のグラフから読み取ったことを数値を挙げて書く」ことに課題がある。複数の情報から読み取る練習や、読み取ったことを書き取る練習を通して、改善を図っていく。 ・「主体的に学習に取り組む態度」においては「自分の考えを書く」ことにおいて課題がみられるため、各单元ごとに行っている200字作文を継続するとともに、ICTを活用し自分の考えを隠さず欠けるように工夫することで能力の向上を図る。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 知識・技能の定着を図る
 - ・漢字の読み書きの力の定着のため、小テストを繰り返し行う。文法事項や古典の歴史的仮名遣いについては、授業での説明だけでなく、問題演習の時間を確保することで定着を図っていく。
- 文章読解力の向上を図る
 - ・聞き取りの小テストを授業の冒頭で行うことで、聞き取りの力を向上させる。
 - ・読解の根拠となる文を題材ごとに丁寧に確認する。
 - ・説明文では、筆者の論の展開の仕方について批判的に考察させることを通して、段落の役割や構成を意識して読ませる。文学作品では、場面設定や心情の変化を追うよう気をつけさせる。
- 文章を書く活動を継続する
 - ・各单元ごとに時間内に200字～400字で作文を書くことを繰り返し行うことで書く力を育む。また、ただ書くだけでなく、課題に応じた要諦を示すことで内容の精度を向上させる。初見の文章や、複数のグラフからも要点を押さえて書く練習を行う。

令和5年度 授業改善推進プラン <1年社会科>

1 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

【取り組み】

- ・授業への取り組みは意欲的で挙手や発言する生徒が多く、集中して取り組んでいる。
- ・一人一台のタブレットやデジタル教科書等ICT機器の活用を日常的に行い、関心・意欲を高める発問と話し合い活動を繰り返し行うことで、主体的・対話的な学習内容の理解に繋げている。
- ・小テストや提出物チェックを定期的行うことで基礎・基本の定着を図っている。

【成果】

- ・1学年のため昨年度の検証はなし。

【課題】

- ・活用力の伸張である。特に問題文の主旨を正しく理解し、何が問われているかを把握する思考力と表現力を育むことが課題である。

2 社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>34問中、内容別で目標値+5ポイント以上の項目が24あり、7割に達している。これにより、概ね小学校段階の学習が定着していることが分かる。</p> <p>目標値-5ポイント未満の領域は、「日本の食料生産」の稲作に従事している人びとの工夫と、「天皇中心の国づくり」における聖徳太子の政策についての2問であった。</p>
観点別結果の分析	<p>目標値と比較して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能は8.2ポイント上回っている。(全国平均比+6) ・思考・判断・表現は9.7ポイント上回っている。(全国平均比+6.5) ・主体的に学習に取り組む態度は8.3ポイント上回っている。(全国平均比+6.7)

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 知識・技能に関しては、小テストやワーク提出の定期的な実施と授業の振り返りができるノート作りに取り組むことで、基本的な知識の定着を図る。また、デジタル教科書等ICT機器を活用しつつ資料読み取りの技術や方法を確実に習得させていく。
- 2 思考・判断・表現に関しては、一人1台タブレットを活用しグループ活動やペアワークを日常的に行うことで、言語活動の活性化を図る。発表活動や文章でまとめる活動を充実させることで、思考力・表現力の向上を図る。
- 3 主体的に学習に取り組む態度に関しては、導入で学習課題を提示し、学び合い活動の工夫を行うことで「気付き」のある授業を行う。また、授業の最後に必ず振り返りをし、ねらいの確認をする場を設けることで主体的に取り組む態度の向上を図っていく。

令和5年度 授業改善推進プラン <2年社会科>

1 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<p>取り組みにおける成果と課題</p> <p>【取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一台のタブレットやデジタル教科書等ICT機器の活用を日常的に行い、関心・意欲を高める発問と話し合い活動を繰り返し行うことで、主体的・対話的な学習内容の理解に繋げている。 小テストや提出物チェックを定期的に行うことで基礎・基本の定着を図っている。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度に比べ1.2ポイント上昇した。内容別で目標値+5ポイント以上の項目が32問中22あり、全体の約7割に達した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活用力の伸張である。活用問題9問中6問で目標値+5ポイント以上を果たしたが、2問で目標値-5ポイント未満であった。特に問題文の主旨を正しく理解し、何が問われているかを把握する思考力と表現力を育むことが課題である。

2 社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>32問中、内容別で目標値+5ポイント以上の項目が22あり、約7割に達している。これにより、中学校入学後の学習が概ね定着していることが分かる。</p> <p>目標値-5ポイント未満の領域は、「日本の姿」の排他的経済水域の理解についてと、「世界各地の人々の生活と環境」の住む家の資料をもとにした考察と表現についてと、「世界の諸地域」の南アメリカの自然環境や産業の特色と、オーストラリアの鉱工業に関する資料の読み取りの4問であった。</p>
観点別結果の分析	<p>目標値と比較して</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識・技能は6.7ポイント上回っている。(全国平均比+5.4) 思考・判断・表現は9.1ポイント上回っている。(全国平均比+3.5) 主体的に学習に取り組む態度は6.8ポイント上回っている。(全国平均比+3.5)

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

1	<p>知識・技能に関しては、小テストやワーク提出の定期的な実施と授業の振り返りができるノート作りに取り組むことで、基本的な知識の定着を図る。また、デジタル教科書等ICT機器を活用しつつ資料読み取りの技術や方法を確実に習得させていく。</p>
2	<p>思考・判断・表現に関しては、一人1台タブレットを活用しグループ活動やペアワークを日常的に行うことで、言語活動の活性化を図る。発表活動や文章でまとめる活動を充実させることで、思考力・表現力の向上を図る。</p>
3	<p>主体的に学習に取り組む態度に関しては、導入で学習課題を提示し、学び合い活動の工夫を行うことで「気付き」のある授業を行う。また、授業の最後に必ず振り返りをし、ねらいの確認をする場を設けることで主体的に取り組む態度の向上を図っていく。</p>

令和5年度 授業改善推進プラン <3年社会科>

1 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

【取り組み】

- ・昨年度も一昨年度に引き続き、地理的分野、歴史的分野ともにICTを利用して興味をもてるような発問を繰り返し生徒に考えさせることで学習内容の理解に繋げた。また可能な限り話し合い活動を取り入れ、明るい雰囲気の中で授業を展開することに留意した。
- ・基礎基本用語の定着を狙った一問一答形式のドリル練習を3年1学期より取りくんだ。特にチャレンジテスト形式を新たに設け、スモールステップで自ら意欲的に学習できるようにした。

【成果】

- ・今年度の大田区効果測定後の取り組みなので、これから（2学期以降）成果が出ると考えている。到達度テスト等で分析をしていきたいと思う。

【課題】

- ・興味をもたせ印象に残る丁寧な授業を毎回心がけているが、1、2年次の内容と関連付けながら進めていくことに更なる工夫が必要である。

2 社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>○地理的分野（日本の地域的特色と地域区分、日本の諸地域、地域調査の手法）については全ての問題でほぼ目標値どおりであった。ただし、まだ伸びしろが十分に見込めると考えている（地理全体では-0.1ポイント）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本の地域的特色と地域区分」（目標値比+0.4ポイント） ・「日本の諸地域」（目標値比+1.3ポイント） ・「地域調査の手法」（目標値比-3.2ポイント） <p>○歴史的分野（安土桃山時代、江戸時代、明治時代）については多くの問題で目標値に届かない結果であった（歴史全体では-0.4ポイント）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安土桃山時代」（目標値比-0.3ポイント） ・「江戸時代」（目標値比+1.7ポイント） ・「明治時代」（目標値比-4.4ポイント）
観点別結果の分析	<p>○目標値と比較して（昨年度は観点が異なるために比較できず）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」は0.2ポイント下回っている。 ・「思考・判断・表現」は0.3ポイント下回っている。 ・「主体的に学習に取り組む態度」は1.1ポイント下回っている。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習取り組む態度
<p>基本的な知識の定着を図ために基本用語ドリルを充実させていく。ICTを活用しながら、資料の読み取り方を確実に習得させる。</p>	<p>ペアワークなどによる問題解決能力の育成、また、発表活動や文章でまとめる活動を充実させる。自分でまとめる力を伸ばすノート作りを啓発していく。</p>	<p>導入展開の工夫や興味関心をもたせる学習課題の設定を行う。ICTを活用する。更にチャレンジテストを実施して何度でも頑張れる体制作りをする。</p>

令和5年度 授業改善推進プラン<1年数学>

1 数学科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

【取り組み】

- 1 主体的に学習に取り組む態度の向上のために、ICTを活用して自分の考えを表現させる活動や、関心を引きつけるような発問の工夫を行った。また、授業の振り返りとして「学んだこと」や「疑問に思ったこと」を具体的に記述させ、自らの学びを顧みて自身に還元する指導を行った。
- 2 数学的な思考・判断・表現の向上のために、やや発展的な課題を話し合いやペアワークで解決する活動や、それぞれの考えを、ICTを活用して共有し、自身の考えや他人の考えを説明させる活動などを実施した。また、基礎的な内容に関しても理由を説明することを重視し、深い理解をはかった。
- 3 数学的な知識・技能の向上のために、問題演習の取り組み方として間違い直しや解き直しを行う方法の指導を徹底した。

【成果】

- ・授業の振り返りを毎週回収しチェックすることで、学んだ内容や疑問点を具体的に表現し、既習事項を整理する力がつき、それらを活用する下地ができた。
- ・話し合いやペアワークで考えを共有したり説明したりする活動を通して、個人の学びでは気付かない新しい考えに気付いたり、多角的に分析したりすることができ、理解を深めることができた。

【課題】

- ・習熟度別少人数指導のよさがいきるよう、コースに特化した授業の組み立てを充実させることが課題である。

数学科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<p>○全分野において、目標値を大きく上回っている。（目標値比+9ポイント）</p> <p>数と計算 すべて目標値、全国正答率を上回っているため、これを持続できるように取り組んでいく。</p> <p>小数・分数の計算全体では目標値及び全国正答率を上回っているが、小数同士の乗法・除法については目標値をやや下回っており、復習する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小数・分数の計算」（目標値比+3.4ポイント） ・「整数の性質」（目標値比+5.3ポイント） ・「文字と式」（目標値比+12.5ポイント） <p>図形 すべて目標値、全国正答率を上回っているため、これを持続できるように取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「面積と体積」（目標値比+9.2ポイント） ・「平面図形」（目標値比+9.3ポイント） <p>変化と関係 すべて目標値、全国正答率を上回っているため、これを持続できるように取り組んでいく。</p> <p>良好であるが、合同な図形を答える問題で若干目標値を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「単位量当たりの大きさ」（目標値比+19.5ポイント） ・「百分率」（目標値比+10.6ポイント） ・「比と比例・反比例」（目標値比+8.4ポイント） <p>データの活用 すべて目標値、全国正答率を上回っているため、これを持続できるように取り組んでいく。</p> <p>良好であるが、組み合わせの場合の数の数え方の問題が若干目標値を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平均・場合の数」（目標値比+7.2ポイント） ・「データの活用」（目標値比+7.3ポイント） ・「いろいろなグラフの読み取り」（目標値比+17.5ポイント）
----------	--

結果 分析 の 観 点 別	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」は、目標値を8.1ポイント上回っている。 ・「思考・判断・表現」は、目標値を12.3ポイント上回っている。 ・「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値を12.1ポイント上回っている。 <p>いずれの観点も全国平均値、目標値ともに大きく上回っており、今後の一層の伸長が期待される。</p>
------------------------------	---

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・小数同士の乗法や除法など、既習内容でもミスしやすい部分に関して、振り返り学習の機会をつくる。 ・単元テストなどを充実させ、知識や技能を確認する機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な学習内容にも積極的に取り組ませ、既存の知識の活用を幅を広げさせる。 ・振り返りで毎回の授業内容を具体的に言語化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度の程度に適した難易度の問題に取り組ませることで、意欲の喚起と成功体験の積み重ねを行う。 ・ICTをより有効に活用し、他者と考えを共有、話し合う機会を増やすことで、数学的活動への関心を高める。

令和5年 授業改善推進プラン〈2年数学〉

1 数学科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

【取り組み】

1. 主体的に学習に取り組む態度の向上のために、導入展開の工夫や興味関心を持たせる学習課題の設定を行った。また、ICTを活用し、視覚的に分かる教材を用いるなどで、数学に対する苦手意識を克服していった。日々の振り返りとノート提出により、できることから学習に取り組む習慣をつけた。
2. 数学的な思考・判断・表現の向上のために、ペアワークなどによる問題解決能力の育成をめざした。文章でまとめる活動を充実させた。振り返りで毎回の授業を言語化させた。
3. 数学的な知識・技能の向上のために、小数同士の乗法や、代表値の考え方など、他教科での応用範囲の広い内容の強化を行った。重要語句の理解を目指し、正しく使うことを目指した。意味の指導とともに、反復練習の機会を充実させた。

【成果】

- ・生徒は概ね興味って授業に取り組み、学習に主体的に取り組んだ。また、classroomの利用により授業の振り返りとノート提出を習慣化させ、深い学びにつなげる足掛かりとなった。
- ・基礎学力の定着を目指し、教科書の内容に沿ったワークシートを作成した。反復練習で自信をつけさせ、スモールステップの授業展開を行った。単元末テストの正答率は平均80%を超えた。

【課題】

- ・習熟度別少人数指導のよさがいきるよう、コースに特化した授業の組み立てを充実させることが課題である。

数学科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<p>○全分野において、目標値を大きく上回っている。（目標値比+15.0ポイント）</p> <p style="padding-left: 20px;">基礎（目標値比+14.7ポイント） 活用（目標値比+16.2ポイント）</p> <p>領域別</p> <p>数と式 すべて目標値、全国平均正答率を上回っているため、これを持続できるように取り組んでいく。</p> <p style="padding-left: 20px;">前年度との比較で、1次式の減法と1次方程式の移項で校内正答率が減少した。</p> <p style="padding-left: 20px;">文字式と1次方程式を復習する必要がある。</p> <p style="padding-left: 20px;">・「計算の復習」（目標値比+7.5ポイント） ・「正の数・負の数」（目標値比+15.0ポイント）</p> <p style="padding-left: 20px;">・「文字式」（目標値比+18.3ポイント） ・「1次方程式」（目標値比+15.4ポイント）</p> <p>図形 すべて目標値、全国平均正答率を上回っているため、これを持続できるように取り組んでいく。</p> <p style="padding-left: 20px;">・「平面図形」（目標値比+15.4ポイント） ・「空間図形」（目標値比+18.5ポイント）</p> <p>関数 すべて目標値、全国平均正答率を上回っているため、これを持続できるように取り組んでいく。</p> <p style="padding-left: 20px;">・「比例・反比例」（目標値比+9.2ポイント）</p> <p>データの活用 すべて目標値、全国平均正答率を上回っているため、これを持続できるように取り組んでいく。</p> <p style="padding-left: 20px;">・「データの散らばりと代表値」（目標値比+17.6ポイント）</p>
結果観 点別の 分析	<p>○全観点において、目標値、全国平均正答率を大きく上回っている。</p> <p style="padding-left: 20px;">・「知識・技能」（目標値比+14.9ポイント）</p> <p style="padding-left: 20px;">・「思考・判断・表現」（目標値比+15.6ポイント）</p> <p style="padding-left: 20px;">・「主体的に学習に取り組む態度」（目標値比+16.9ポイント）</p>

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重要語句の理解を深め、移項など、計算の意味の指導の充実を目指す。 表やヒストグラムの考察、式を読む作業など、基本的な考察を行う習慣づけをし、理解を深める。	証明や説明の場面での気づきを、ペアワークなどで言語化し、問題の理解を深める習慣をつける。形式を理解することで、考えを正確に伝える方法を習得させる。	根拠を明確にして説明することを目指し、必要な手法を繰り返し練習する。 無回答を減らし、自分の考えを答案に表そうとする態度を育成する。

1 数学科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

【取り組み】

- ・計算練習の機会を確保すべく、単元や章ごとにまとめ演習を実施し、問題演習や小テストなどドリル練習を重ねて基本の定着を図った。2週に1回小テストを実施し、単元ごとに章末テストを実施した。
- ・苦手意識をもっている生徒が多いため、模型や実験・ICTの利用など、視覚的に分かる教材を用いて、興味をもてるような授業の導入を行った。
- ・ペアワークなどの話し合い活動を多く取り入れ、生徒の意見を広げていき、みんなで学ぶ数学を実践し、明るい授業を心がけた。また演習の時間では、一人ひとりに細かいサポートを行い、習熟度別授業のよさを取り入れた授業を展開した。
- ・毎回の授業で学習を振り返る活動を行った。その日の授業で学んだことを振り返り、疑問点を整理する活動を行った。

【成果】

- ・生徒の理解度を確認する機会が多くなり、授業改善にむけての取り組みを日々行うことができた。また章末テスト等を実施することで、基本的な計算技能や思考力が身に付くだけでなく、生徒自らが学習にむかう力がついた。
- ・基本の定着はできている。定期考査や単元末テストでは、正答率は75%を超えた。
- ・毎回の授業を振り返ることで、疑問や分からなかったことの把握がしやすくなった。また生徒も学習を振り返る習慣がついた。

【課題】

- ・主体的に学習する生徒は多くなったが、苦手意識からどのように学習すればいいかが分からない生徒がいる。まず単元に興味をもてるような授業を展開し、学習のコツを伝えていく取り組みを行う。

2 数学科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>○全分野において、目標値をおおきく上回った。昨年度の学習効果は概ね良好な状況と考えられる。 (目標値比+6.2ポイント)</p> <p>○数と式 ほとんどの問題で目標値を上回っており、全国正答率も上回っている。一方で、連立方程式の文章問題において、文字が何を表すかを指摘する問題の正答率は目標値を下回った。文章問題において、文字や式が何を表すかの思考力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「計算の復習」(目標値比+11.2ポイント) ・「式の計算」(目標値比+13.4ポイント) ・「連立方程式」(目標値比+6.7ポイント) <p>○図形 目標値を上回っている問題が多いが、直角三角形の合同条件や特別な四角形の性質の問題は目標値を下回っている。合同条件や定義など、もう一度定着を図る必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「図形の性質」(目標値比+6.0ポイント) ・「証明」(目標値比+2.5ポイント) <p>○関数 すべて目標値を上回っている。1次関数の利用は全国正答率を下回る問題もあったため、基本を活用する思考力の育成に取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1次関数」(目標値比+4.3ポイント) <p>○データの活用 確率の問題はすべて目標値、全国正答率を上回っているため、これを持続できるように取り組んでいく。一方で箱ひげ図の読み取りは目標値を下回った。データを読み取る力をつける演習が足りていないことが原因と考えられるので、データを分析し、読み取る演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「確率」(目標値比+8.3ポイント) ・「データの分布」(目標値比-4.8ポイント)
----------	--

観
点
別
結
果
の
分
析

目標値と比較して

- ・「知識・技能」については6.6ポイント上回っている。どれも目標値は上回っているが、1次関数の分野では全国正答率を下回る問題もあった。関数の問題を中心に基本の定着を図る必要がある。
- ・「思考・判断・表現」は4.6ポイント上回っている。正答率が高いが、目標値に近い問題がある。また連立方程式の利用では、目標値を下回る問題もあったので、計算や言葉の意味を再度確認し、問題解決能力を育成する必要がある。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は6.3ポイント上回っている。目標値を上回る問題も多いが、連立方程式や1次関数の問題では目標値を下回った。学習することに興味をもち、基本の内容を活用する力をつけていく。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>基本的な計算の定着を図るために、引き続き計算練習の機会を充実させていく。</p> <p>章末テストや小テストも定期的 に実施し、理解度を確認しながら 授業改善を行っていく。</p>	<p>ペアワークなどによる問題解決 能力の育成、発表活動や文章でま とめる活動を充実させる。</p> <p>学習したことをどう活用するか を考える力をつける。そのために、 日常生活と関連した問題を用意 し、数学の必要性やよさを感じな がら学習する機会を設ける。</p>	<p>導入展開の工夫や興味関心をも たせる学習課題の設定を行う。</p> <p>昨年度同様、ICTを活用し、視 覚的に分かる教材を用いるなど で、数学に対する苦手意識を克服 していく。</p>

令和5年度 授業改善推進プラン〈1年理科〉

理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

昨年度の1年生と比べると、「植物のつくりとはたらき」の光合成に関する問題と「大地のつくりと変化」、「水溶液の性質」は正答率が高かった。しかし、「ものの溶け方」や「動物のからだのつくりとはたらき」は低かった。

実験、観察を通して、「思考力・判断力・表現力」を高めていくだけでなく、「知識・技能」も高めていくために、小テストを繰り返し行う、実験の考察の発問を工夫していく必要がある。

昨年度は目標値に達していなかったものの、今年は目標値に達していた。小学校との連携がよくでき、しっかり取り組むことができていたと判断できる。

理科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<ul style="list-style-type: none">・「植物のつくりとはたらき」の顕微鏡の操作と蒸散の問題は目標値に届かなかった。顕微鏡の操作は7.3ポイント、蒸散の問題は19.8ポイント目標値より下回った。・校内平均正答率について前年度と比較すると「植物の発芽と成長」は9.3ポイント、「水溶液の性質」は13ポイント上回った。・「動物のからだのつくりとはたらき」は目標値より1.8ポイント低く、「生物と環境」は目標値より0.2高く、目標値に近い値だが、ほかの分野に比べると正答率は低かった。
観点結果の分析	<ul style="list-style-type: none">・3観点すべてについて目標値を上回っていた。・校内平均正答率について前年度と比較すると「知識・技能」は4.5ポイント、「思考力・判断力・表現力」は6.3ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は5.8ポイント上がった。・「思考力・判断力・表現力」においては、目標値に達していたものの、達成率はほかの観点よりも低かった。・3観点とも全国平均よりも上回っていた。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- ・観察・実験における技能が定着していないこともあるので、小学校と連携して定着度を共有しながら高めていく。計算が苦手な生徒とそうでない生徒の差が大きいため、授業の中で演習問題に取り組みつつ、課題やタブレットを用いて、強化を図る。
- ・思考力・判断力・表現力を高めるために、ICTを効果的な場面で活用していく。
- ・小テストを頻繁に行うことで、知識の定着を図り、復習にも取り組ませる。

令和5年度 授業改善推進プラン〈2年理科〉

理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<p>取り組みにおける成果と課題</p> <p>○小单元ごとに、小テストを実施した。→生徒は小单元ごとに復習をした。小テストは今後も継続する。</p> <p>○実験を行い、得られた結果から考察させた。→じっくり考え、論理的な表現ができるようになってきた。これからは実験を多く取り入れる。</p> <p>○ICTを活用して授業を進めた。→ノートをとることが苦手な生徒でもプリントの穴埋めをすることができた。興味をもったことについて個人で調べたり、まとめたりして、学習内容を深めることができた。</p>

理科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<p>○校内平均正答率について、前年度と比較すると、「エネルギー」は4.0ポイント、「粒子」は12.8ポイント、「生命」は8.7ポイント、「地球」は7.3ポイント上がった。</p> <p>○校内平均正答率は、全分野において目標値を上回り、昨年度までの学習効果は概ね良好だといえる。</p> <p>○特に、「粒子」の分野の校内平均正答率が目標値に比べて非常に高く、目標値を下回る問題はなかった。</p> <p>○「地球」の分野の「火山」や「地層」に関する問題の校内平均正答率が、目標値を下回った。</p> <p>→「地球」の分野は、昨年度末の学習内容であり、定期考査を通して繰り返し学習をすることができず、学習内容が定着しにくかったと考えられる。</p>
観点別の分析	<p>○校内平均正答率について、前年度と比較すると、「知識・技能」は10.2ポイント、「思考・判断・表現」は6.8ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は6.2ポイント上がった。</p> <p>○校内平均正答率は、全観点において目標値を上回り、昨年度までの学習効果は概ね良好だといえる。</p> <p>○特に、「知識・技能」の観点の校内平均正答率が目標値に比べて非常に高かった。</p> <p>○校内平均正答率が前年度よりも低下している問題は、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の両観点にかかわるものが多かった。</p> <p>→「サクランボがどのようにできるか」や「鏡にうつる範囲はどうなるか」など、普段から身近なものについて関心をもったり、考えたりする機会が少ない可能性がある。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

<p>1 「知識・技能」を定着させる。</p> <p>→小单元ごとに小テストを実施するとともに、定期考査前の復習と定期考査後のまとめまでを通じて、既習内容を確実に定着させる。</p> <p>→実験の中で、器具の扱いや操作手順を実体験として学び、技能を身につけさせる。</p> <p>2 「思考力・判断力・表現力」を高める。</p> <p>→実験結果から、データを比較したり、傾向を読みとったりして考察する活動を積極的に取り入れ、科学的な思考力や判断力を伸ばす。</p> <p>→考察したことや調べたことについて、自分の考えを書くとともに、他者に伝える経験を重ね、表現力を高める。</p> <p>3 「主体的に学習に取り組む態度」を育む。</p> <p>→新たに学んだことを日常生活や既習事項と関連させられるように、ICTを活用して課題や資料を提示したり、情報を伝えたりしていく。</p> <p>→ICTを活用して自分で調べる活動を取り入れることで、学習内容を自ら掘り下げたり、自分の興味を広げたりするように促し、主体的に学習に取り組む態度を育む。</p>

令和5年度 授業改善推進プラン〈3年理科〉

理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・やるべき実験については、ほとんど行うことができた。実験からわかることをじっくり考えさせた。
- ・実験後のまとめを丁寧に行い、実験に関する知識の定着が向上した。
- ・一定量ICTを活用することはできたが、効果を十分にあげるまでには至っていない。持続させることが重要。
- ・小テストを活用した知識等の定着は、取り組み状況に個人差があり、目標値に届いていない。

理科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<ul style="list-style-type: none">・「化学変化」や「動物のからだのつくりとはたらき」、「気象の観測の湿度」、「電流の正体」の分野の定着は確実に進んでいる。・「化学変化と物質の質量」について理解が十分ではなく、グラフ化や計算問題がとけない生徒が多くいる。・「気象の観測」では圧力の計算ができていない。・「生物と細胞」では組織と器官の理解ができていない。・「電流の性質」、「電流と磁界」については、それぞれの法則性が理解できていない。・「前線の通過と天気の変化」「日本の気象」では、前線の構造と日本の天気の特徴が理解できていない。
観点別の結果分析	<ul style="list-style-type: none">・「思考・判断・表現」では、計算によって圧力を求めること、実験結果から法則性を見出すこと、ある事象の結果から他の事象を考察したりすることなどが苦手できていない。・「知識・技能」では、日常生活から少し離れた科学的な事象についての学習内容が定着していない。これは、科学的な事象に対する興味関心が十分に高められていないことに起因していると考えられる。また、グラフ化や実験技能についても理解が不足している。実際に課題や実験に取り組めないことがあったと考えられる。・「主体的に学習に取り組む態度」については、少し高度な内容や複雑な思考を必要とする内容になると、興味関心を持ってなくなり、取り組み自体をやめてしまう生徒がみられる。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- ・「思考・判断・表現」では、計算等には問題練習を増やし、段階的な難易度の問題を用意する。また、実験結果についての考察の重要性を示し、自分の言葉で表現できるように指導していく。
- ・「知識・技能」では、定着の個人差が大きくなってきているので、どちらにも対応できるように、スモールステップ的な活動と発展的な内容をバランスよく取り入れていく。また、日常生活と結びつくような例にふれる機会を増やし、知識の定着の向上を目指す。さらに体系的な理解をすすめるために、3年の授業内容に絡めて、1・2年の授業内容の復習も随時取り入れていく。小テストも継続して実施する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、ICT機器を活用し、画像や動画を効果的に使うことによって、興味関心を高め、主体的に学習に取り組む態度を育てる。また、事象の説明の際は、スモールステップを心がけ、全員が取り組めるようにする。

令和5年度 授業改善推進プラン〈1年英語〉

英語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- 毎月一回、単語テストを実施した。 → 語彙が定着してきただけでなく、生徒が自ら学習をする機会となった。
- 帯活動として1分間インタビューを毎回取り入れた。 → 英語学習に対する意欲に生徒間の差があることは以前と変わらないが、反復して行うことにより意欲的に取り組む生徒が増えた。
- 自己の学習状況を振り返る機会を多く提供した。 → 生徒が各々の学習状況を把握できた一方で、それを以後の学習の改善につなげることに課題が残った。

英語科における調査結果の分析

内 容 の 結 果 分 析	<p>○全分野において目標値を上回り、学習効果は概ね良好な状況であると考えられる。</p> <p>○リーディングの問題については正答率が非常に高かった。今後は授業内、定期試験で英問英答の問題などを取り入れることで、より正確に文章を読み込む力を伸ばしていきたい。</p> <p>○リスニングの問題については良好な結果ではあったが、対話文の最後の適切な応答を選ぶ問題の正答率が伸びなかった。授業内で取り混ぜることで、力を伸ばしていく必要がある。</p> <p>○ライティングの問題については、指示に沿って英文を書き換える問題の正答率が低かったため、文法事項を確実に定着させる必要がある。そのため、授業内で同様の活動を取り入れられるように授業改善を行う。またテーマに沿って英文を書く問題の正答率が、得意な生徒とそうでない生徒の間で二極化している。これまで学んだ文法項目を総合的に使用するような活動を取り入れるなど、授業での活動を改善したい。</p>
観 点 別 の 分 析	<p>○「知識・技能」については、毎月の単語テストで成果が上がっており、生徒が自主的に学習に取り組む良い機会になっている。今後も定期的に単語テストを行うことで、定着を促していきたい。</p> <p>○「思考・判断・表現」については、ALTの評価によるスピーチテストがかなり良好な結果となった。今後も表現活動を授業内に取り入れることで、より正確な表現力を身につけさせたい。一方で自ら英文を作り出す力には課題が見られるため、正確な英文を書く力を授業内で伸ばしていく必要がある。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」についてはおおむね良好な結果となったが、評価材料を増やすことで、より性格な評価ができるようにしていきたい。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 文法・語彙の知識をさらに深め、それらを活用して表現する技能を高める。
 - 授業内でのアクティビティと十分なパターンプラクティスを通して、より正確な知識を身につける。
 - 繰り返し既習内容に触れる機会を提供することで、各内容の定着を図る。
 - 今後も単語テストを継続し、生徒の語彙力を高めていく。
- 2 思考力・判断力・表現力を高める。
 - 場面やテーマに沿った会話が即興でできるよう、毎回の授業で行っている1分間インタビューを引き続き行い、今後行う表現活動への足がかりとしていく。また生徒の「話したい」「言ってみたい」という意欲を生かし、表現力・語彙力をさらに伸ばしていきたい。
 - 教科書の内容を中心にライティングのテーマを与えて、これまでに学習した内容を使用する場面を提供し、正確に書く力を伸ばす。
- 3 主体的に学習に取り組む態度を育む。
 - 自分自身の学習状況を調整させるために、自己評価の機会を多く提供する。
 - 自国以外のものごとに興味を持たせるため、異文化に関する様々な情報を伝え、生徒が自ら知ろう・学ぼうとする意欲を引き出す。

令和5年度 授業改善推進プラン <2年英語>

英語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- 授業内での英語によるコミュニケーションの頻度を増やした。
 - 英語で指示を聞くことに関しては少しずつ抵抗感がなくなってきた一方で、英語で自分の意見をアウトプットすることに苦手意識をもっている生徒が多い。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況を提示し、それに応じてアウトプットする機会を与えた。
 - 書く領域やあらかじめ準備のできるスピーチにおいては、取り組み状況が良好であった。一方で、即興性の求められるインタビューにおいては、さらなる練習が必要である。
- 自己調整させることを目的として自己評価の機会を定期的に提供した。
 - 自分自身の英語学習を振り返る習慣ができた一方で、その改善点を次の行動に結びつけることに課題を感じた。

英語科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<ul style="list-style-type: none"> ○全分野において達成率が高く、昨年度までの学習効果は良好な状況であると考えられる。 ○聞く領域の問題はすべて達成率が高かった。必要な情報を聞き取り、英語で答える問題の正答率が他と比べて低かったため、分野横断型の問題にも積極的に取り組むべきである。 ○読む領域の問題はすべて達成率が高かった。命令文の動詞の形や一般動詞過去の疑問文に関する問題の正答率が比較的低く、語形・語法の知識・理解について引き続き確認が必要である。 ○書く領域の問題はすべて達成率が高かった。一方で、無回答の答案の数も多く、正確性のみならず焦点を当てるのではなく、コミュニケーションという観点での指導も必要である。
観点別の結果分析	<ul style="list-style-type: none"> ○「知識・技能」について、すべて達成率が高かった。今後も文法・語彙の定着指導に努めたい。 ○「思考・判断・表現」について、すべて達成率が高かった。正確性とコミュニケーションのバランスを取りながら、アウトプットする機会を多くもちたい。 ○「主体的に学習に取り組む態度」について、すべて達成率が高かった。英語を用いてメッセージを伝えようとする主体的な態度を育めるような工夫を考え取り組ませたい。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 文法・語彙の知識・理解をさらに深め、それらを活用して表現する技能を高める。
 - 文法も語彙も一度学習するだけでは定着しないため、帯活動などを利用し、定期的に復習の機会を与える。
 - 既習文法・語彙を4技能5領域と関連付けて学習することにより、より一層定着を図れると考える。そのため、意識的にインプット・アウトプットをさせる。
- 2 思考力・判断力・表現力を高める。
 - 場面設定に基づき、必要な情報・概要・要点を把握し整理しまとめる機会を多く提供する。
 - コミュニケーションを行う目的や場面、状況を提示し、正確性のみでなく流暢性にも重きを置いてアウトプットさせる。
 - 英語がコミュニケーション・ツールであることを意識させるために、自己表現する機会を多く提供する。
- 3 主体的に取り組む態度を育む。
 - 自分自身の英語学習を自己調整させるために、定期的に自己評価させる。また自分自身の習熟度を把握させるために、定期的に小テストを実施する。
 - 将来の生活やキャリアにおいて自分自身が英語を使用する姿を思い浮かべられるよう、海外で活躍する日本人について紹介したり、第二言語学習者としてのモデルとなる姿勢を示したりする。

令和5年度 授業改善推進プラン〈3年英語〉

英語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- 毎月1回、単語テストをした。→ 語彙が定着してきてだけでなく、生徒が自ら学習をする機会となった。今後も毎月続けていく。
- 帯活動として約1分の会話活動と英語の歌を毎回取り入れた。→ 多少の差はあるが、英語学習に対する意欲が、反復して行うことにより増してきた。
- 自己の学習状況を振り返る機会を多く提供した。→ 生徒が各々の学習状況を把握できた一方で、それを以後の学習の改善につなげることに課題が残った。

英語科における調査結果の分析

内 容 の 結 果 分 析	<p>○全分野において目標値を上回り、昨年度までの学習効果は概ね良好な状況であると考えられる。</p> <p>○リスニング問題において、対話文の応答を選ぶ問題の正答率が目標値に比べ非常に高かった。帯活動での取り組みにより力がついたとみられる。</p> <p>○読む領域の問題についても正答率が高かった。今後さらに、授業内や定期試験で英問英答の問題などを取り入れることで、より正確に文章を読み込む力を伸ばしていきたい。</p> <p>○書く領域の問題については、場面に応じて英文を書く問題の正答率が目標値の2倍近い値となったが、まだ正答率が低いため、文法事項を正確に理解させ、よりいっそうわかりやすい授業展開を心がける必要がある。またそれと同時に、これまで学んだ文法項目も取り入れた総合的な力をつけられるように、授業での活動を改善したい。</p>
観 点 別 の 分 析	<p>○「知識・技能」については、語法や語形の理解や単語の並べ替えが昨年度より下がっていて、その力が定着しきれていないことがわかった。定期的に小テストなどを行うことで、定着を促していく必要がある。</p> <p>○「思考・判断・表現」については、どの項目の目標値を上回った。しかし、場面に応じて書く問題に関しては正答率が半分以下であったため、正確な英文を書く力を授業内で伸ばしていく必要がある。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」についてはおおむね良好な結果となった。今後も同様な結果になるよう、学習方法などのアドバイスを授業内で行っていきたい。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 文法・語彙の知識をさらに深め、それらを活用して表現する技能を高める。
 - 帯活動の内容の再考と十分なパターンプラクティスをとおして、より正確な知識を身につける。
 - 学んだことがその場限りの知識で終わらないよう、繰り返し既習内容に触れる機会を提供する。
 - 語彙力を高めるために単語を多く書く活動や単語テストなどを定期的に取り入れる。
- 2 思考力・判断力・表現力を高める。
 - 場面やテーマに沿った会話ができるよう、英会話を引き続き行い、表現力を高めていく。また短時間だが読む活動も行い、表現力を高めていく。
 - 教科書の内容を中心に英文を書く機会を提供し、正確に書く力を伸ばす。
- 3 主体的に学習に取り組む態度を育む。
 - 自分自身の学習状況を調整させるために、自己評価の機会を多く提供する。
 - 教科書のテーマを中心に異文化に関する様々な情報を伝えたり、生徒が自ら学ぼうとする意欲を引き出すために学習方法のアドバイスをしたりする。

令和5年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立東調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「A表現（歌唱）」の学習において、思いや意図をもって表現しようとする生徒が増えた。
- ・「A表現（器楽）」の学習において、基本的な奏法を身につけてアルトリコーダーなどを演奏できる生徒が増えた。
- ・「B鑑賞」の学習において、音楽的な特徴を捉えて鑑賞できる生徒が増えた。

(2) 課題

- ・「A表現（歌唱）」の学習において、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などに課題がある。
- ・「A表現（創作）」の学習において、表現したいイメージをもち、構成や全体のまとまりを工夫して音楽をつくることを伸ばしていく。
- ・「B鑑賞」の学習において、曲や演奏に対する評価やその根拠を明らかにできる力を伸ばしていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

実施教科ではない

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知識】 読譜に必要な用語や記号などについて音楽における働きと共に指導する。 【技能】 歌唱するために必要な発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身につけられるよう指導する。	歌唱の学習において、音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。意見交換しながら、自分たちの歌唱表現を創意工夫する活動を行う。	領域ごとに意欲的に取り組むことができるよう、明確に目標を設定する。仲間と共に学習する機会を大切にし、ペアやグループでの活動を取り入れ互いにアドバイスをし合う活動を行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知識】 読譜に必要な用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解させ、読譜力を高める指導を行う。 【技能】 豊かな響きで歌唱するために必要な発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身につけられるよう指導する。	歌唱の学習において、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取しながら、知覚したこと感受したこととの関わりについて考え、積極的に意見交換を行い、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する。	領域ごとに意欲的に取り組むことができるよう、明確に目標を設定する。仲間と共に学習する機会を大切にし、ペアやグループでの活動を取り入れ互いにアドバイスをし合う活動を行う。ICT機器を適宜しようする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知識】 曲想と音楽の構造の関わりについて理解し、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりを理解できるよう指導する。 【技能】 豊かな響きで歌唱し、他の声部との関わりなどを意識して歌唱する技能を身につけるよう指導する。	鑑賞の学習において、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取しながら、知覚したこと感受したこととの関わりについて考え、音楽の良さや美しさを味わって聴き、自分なりの言葉で伝える活動を行う。	領域ごとに意欲的に取り組むことができるよう、明確に目標を設定する。仲間と共に学習する機会を大切にし、ペアやグループでの活動を取り入れ互いにアドバイスをし合う活動を行う。ICT機器を適宜しようする。

令和5年度 授業改善推進プラン〈美術科〉

● 美術科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- ▶ タブレットが導入され、美術室のICT環境が整ったことにより
 - (第1学年) 絵文字の制作でタブレットを効果的に活用することができ、生徒は意欲的に取り組んだ。
 - (第2学年) 手作業とタブレット機能の活用を融合させることで、普段絵が苦手な生徒も積極的に取り組み、発想に広がりを見せた。
 - (第3学年) 作品のアイデアを練る時間の短縮につながり、制作時間の確保につながられた。写真や画像の活用で、より表したいイメージに近づけられ、完成度の高い作品が見られた。
- ▶ 作品カードをスクールタクトで作成することで、お互いの作品を鑑賞し合う意識が高められた。作品に込めた思いなどをより詳しく言葉で表されるようになり、効果的な鑑賞活動が見られた。

● 美術科における分析と課題

【知識及び技能】

表現に苦手意識を持つ生徒がまだ2割ほどいる。基礎基本の知識と技能を身につけるには、相応の時間が必要である。特に第1学年においては、厳選して色彩の基礎、ポスターカラーの扱い方の基礎、素描の基礎を身につけさせ、第1学年で身につけた技能を元に、第2・3学年では主題にあわせ、造形の要素を活用した表現を、見通しをもって取り組めるように授業を組み立てる必要がある。

【思考力、判断力、表現力等】

形のないものを想像し、イメージを持つことに苦手意識を持つ生徒が多い。表現のヒントを、美術室文庫やタブレットで探せるよう援助の必要性を感じる。またプレゼンテーションを行うことは、他者の思いや考え方を知り、刺激を受け、発想の幅を広げる有効な手段であった。ICT環境が整えられたことを活用し、今後発想の広がりを持たせる工夫が必要である。

【学びに向かう人間性】

生徒達は、廊下に展示された作品をよく鑑賞し、美術を愛好している様子が見える。また、毎週一点の作品を鑑賞することで鑑賞活動を充実させ、興味をもって作品を鑑賞することや、自分なりの感想を言葉で表現する習慣をつけていく必要がある。表現活動と鑑賞活動を充実させることで学びに向かう人間性を養っていく。

● 美術科における授業改善のための具体的な取り組み

教室環境の整備	授業の流れが一目で理解できるように、板書や用具・作品提出場所を工夫する。前年度の見本作品を教室内や廊下に掲示する。
授業規律の確立	持ち物の準備・チャイム着席・挨拶・話を聞く態度の指導の徹底。
技能の基礎基本	色彩・レタリング・ポスターカラーの使い方といった美術における基礎基本を丁寧に指導し、習得させる。
ものを観る力の育成	デッサンを通して、思い込みを捨て、物をしっかりと観ることを学ばせる。また、鑑賞を通して作品を観る力をつけさせる。
発想力の育成	自分のイメージにあった画像を探す力や手法を身につけさせる。 他の発想に触れることで、新たな発想を生み出す力を身につけさせる。
活動の振り返り	毎授業、活動の振り返りを授業カードに記録させ、めあてを理解し、見通しを持ちながら作業をしているかを評価・確認する。
作品の展示	完成した作品を掲示することで、承認欲求を満たし自己肯定感を高める。

令和5年度 授業改善推進プラン〈保健体育科〉

●保健体育科における昨年度授業改善推進プランの検証

体育分野では、個人・チームの課題に対して考えを深め、具体的な目標や技能ポイントに向けて意欲的に授業に取り組む生徒が多くなった。学年によってはやや授業規律に課題がみられるが、互いに教えあい、認めあう機会もおおむねみられている。今後、苦手意識のある生徒に対しても、「苦手でも努力する」姿勢を支援していきたい。

保健分野では、生徒の個人差や取り上げる内容にもよるが、興味をもって授業に臨み、積極的に授業参加し、課題を提出する生徒が増えている。

●保健体育科における分析と課題

<体育分野>

- ・身体能力や基礎体力に個人差があるが、記録や技能の向上に努力し、意欲的にチャレンジする生徒が多くみられる。反面、苦手な種目に対しては、授業に消極的になってしまう生徒もいる。
- ・苦手意識がある生徒や不得意な生徒に対し、実現できうる具体的な課題を持たせ、段階的な指導で「やればできる」を体験させ、自信をつけさせることで向上心や自尊感情を高めたい。
- ・近年の感染症による制限から、運動経験が未熟であり体力の低下や日常生活での怪我が多いように思われる。
- ・授業規律や授業環境を整える必要がある。
- ・全学年男女共修となり、運動ができる男子と運動が苦手な女子の技能差が大きいので練習課題の設定が難しい。

<保健分野>

- ・保健の授業内容から、普段の生活や学校生活などの身近な問題としてとらえ、考える生徒が多く、生徒自身の経験から得た知識を授業で深めようとしている。
- ・課題の提出状況・提出内容は生徒により差がある。
- ・保健に対する興味・関心はおおむね高い。

●保健体育科における授業改善のための具体的な取り組み

<体育分野>

第1学年

- ・授業のルール、集団行動、ラジオ体操、補強運動等の指導の徹底を図る。
- ・ノートや学習カード、プリントを活用し、記録や技能の向上がわかるようにする。
- ・体育が苦手、不得意な生徒の実態から、より実現可能な課題や教材を研究する。
- ・健康、安全に留意し互いに運動する態度を育てる。
- ・基礎体力を高める取組を行う。

第2学年

- ・運動会に向けて身についたラジオ体操を継続し、来年度を見据えた準備体操を行う。
- ・授業に集中できる環境・姿勢で全体指示を行い、授業のねらいを明確にする。
- ・技能ポイントを示した学習カード、プリント等を活用し、記録や技能の向上がわかるようにする。
- ・個人・チームの課題を明らかにした授業展開から、互いに学びあい高めあう学習へと深めていく。

第3学年

- ・授業に集中できる環境・姿勢で全体指示を行い、授業のねらいを明確にし、協働的な学びを取り入れていく。
- ・1・2学年で学んだことの定着を図り、応用、発展できるようにする。
- ・様々な種目に取り組み、生涯を通し運動に親しむ習慣を身につける。
- ・自身の課題解決を目指し、学びや動きを探究できるよう声掛けや環境づくりを行う。

<保健分野>

- ・学年の特徴を活かし、教材の工夫を心がける。授業の導入に気を配る。
- ・具体的なデータ・教材等を提示し、生徒が保健に対して興味関心が持てるようにする。また、生徒が発言しやすいように発問を配慮する。
- ・班やグループでの実習、学習、発表等を通し、生徒自身が積極的に活動できる場を設ける。
- ・ニュース等の時事から、授業で学んだことを日常生活と関連づける工夫をしていく。

令和5年度 授業改善推進プラン（技術・家庭）

● 技術・家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

本校の教育重点目標にある「自分で課題を見つけ課題をつくり、その課題の解決を図ろうとする生徒」に関しては、おおむね満足できる。主体的・対話的な学びを通して、自発的に行動する姿勢を身につけさせたい。

また、「向上心を持って主体的に学習に取り組む生徒」に関しては、ICT環境の整備など授業形態や授業方法を工夫し、改善がみられている。

● 技術・家庭科における分析と課題

〈技術分野〉

最後まで作品を完成させ、完成度を高めるといやる気と根気を養わせたい。そのため、多少のつまずきであきらめてしまう生徒や、完成度を高める意識が乏しい生徒も多少いるので、個別の指導や班活動などを増やし、支援をしていく必要がある。

安全に対する意識や危機管理に対する意識は概ね高い。ものづくりを通して、ものを作る喜びや達成感を味わわせたいが、個別の支援を必要とする生徒もいる。

ChatGPTなどのAIが発達してきたため、それを使うための情報リテラシーを養う。

〈家庭分野〉

小学校での学習内容の定着度に差があることから、既習の内容を含めた基礎・基本の学習内容の定着を図る必要がある。定着が不十分な生徒には個別指導が必要である。また、学習活動の中で生徒が主体的に取り組めるような教材の開発、授業展開の工夫が課題である。

課題発見、課題解決する力について、実生活での経験、ふり返り活動を通しながら課題解決を図ろうとする生徒が増えてきている。さらに体験的・実践的な学習を多く取り入れ、自分自身だけではなく家族、家庭、地域に視野を広げ、様々な角度から物事を考えられる力を身につけさせたい。

● 技術・家庭科における授業改善のための具体的な取り組み

〈技術分野〉

第1学年：小学校の学習内容の復習を兼ねた基礎・基本の習得に重点を置いた題材を選んだ。作品の制作において、見通しを持ち、各工程に必要な材料や工具などを自ら考える力を養う。それらを通して実生活においても、見通しを持てるようにする。

授業中に話し合い活動を多く増やし、対話する時間を増やした。班で話し合い、班長が発表することで発表が苦手な生徒も意見を出しやすい環境づくりに努めた。

第2学年：日常生活に関係のある題材を取り上げ、それをいかに生活の中で生かしていくかを考えながら基礎・基本の定着を目指す。特にエネルギー変換では、電気についての基本知識や利便性に触れると共に、感電・漏電など、身の安全にかかわる分野を充実させる。栽培分野では、実際に作物を育てることで体験的な学習を意識する。水やりなど日頃の世話の重要性に気づかせる。情報分野では、情報を安全に取り扱おうと共に、犯罪に巻き込まれないための知識と共に、加害者にならないよう情報モラルに対する意識を高める。情報化社会に適応できるようにコンピュータ利用についての基礎・基本を習得させ、社会に通用する技能を身につけさせる。

実際にChatGPTなどを使い、その利点と欠点をしっかりと理解し、情報リテラシーを高める。

第3学年：情報を安全に取り扱おうと共に、犯罪に巻き込まれないための知識と共に、加害者にならないよう意識を高める。特に、著作権や肖像権などに重点を置く。情報化社会で適応し、応用できるようコンピュータの基礎・基本を習得させる。特に、プレゼンテーション用ソフト（Power Point）を用いたプレゼンテーションの実習を行い、高度なプレゼン力を身につけさせたい。また、プログラミングでは双方向性のあるコンテンツを用いる。

〈家庭分野〉

第1学年：小学校の内容をフィードバックしながら、繰り返し学習することにより、基礎・基本の定着を図り、実習を通して楽しさや達成感を味わわせる。また、ICT機器を積極的に活用しながら知識、技能の習得につなげる。食生活の自立のために、中学生や家族の食生活、環境問題に関する課題を見つけ、問題解決する力を身につけさせる。

第2学年：衣生活・住生活の自立のために、実生活や既習内容をフィードバックしながら、自分自身および家族の課題を見つけさせる。浴衣の着装の授業を行い、日本の伝統文化に直接触れる機会を。また、作品製作を通して技能を習得させ、ものづくりの楽しさや達成感を味わわせる。目的に合わせて一斉指導と個別指導を行い、進度の遅い生徒に対しては教え合い学習を積極的に行い、教えることによる技能習得の定着も図る。

第3学年：幼児に関する様々な課題について家族や家庭、地域、社会とのかかわりを考え、積極的に解決しようとする力を育てる。また、作品製作を通して、幼児とのかかわり方や幼児の発達についての基礎基本をふり返らせ、学習内容の定着を図る。3年間のまとめとして、これからの持続可能な社会を展望し、自らの力でよりよい生活を創造しようとする態度、生きる力を身につけさせる。